

『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度（第5回）共通テストの追・再試験が実施された。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）21 ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

学習指導要領「公共」（以下「公共」）の目標である、「現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」を踏まえて問題が作成されていると同時に、時事的な話題も取り入れるなど、高等学校の指導を踏まえた出題が数多くみられた。

出題内容ごとに見ると、「公共」の大項目A～Cの内容を踏まえて、法、政治、経済、探究の項目ごとに大問が作られ、各大問には大項目Aに関連する問題が組み込まれている。また各問題を観点ごとに見ると、知識・理解の問題が過半数を占めている。また、思考に分類される問題と、技能の問題がほぼ同数あった。このうち思考に分類される問題は、時事的な話題を取り込んだり、課題を解決するためにどのような方策が考えさせたり、AI と関連させた文章を読ませて考察させるなど現実社会の諸課題と向き合う問題となっている。また技能に分類される問題も、単に数値の読み取りではなく、既習の知識等を活用して考えさせるなどの工夫がみられた。

全体をとおしてみると、本試験との難易度の差が感じられず、扱っている内容も「公共」らしさが感じられ、学習指導要領に定める範囲で出題され、難易度は標準であるといえる。

第1問 生徒の会話から、功利主義、人権保障、消費者問題などに関する問題で構成されている。

「公共」における幅広い分野からの出題で、バランスが取れている問題である。複雑な技能や思考を問う問題が無いため、難易度は低いと思われる。

問1 功利主義の基本的知識と人間の尊厳を問う問題で、☐ア、☐イそれぞれが二択の選択肢であり、誤答が分かりやすく、受験者にとっては難易度が低いと思われる。

問2 人権保障に関する思想や歴史について、考え方とその内容を表したカードを一致させる問題である。考え方とカードに手がかりがあるので、受験者にとっては確実に正答できる問題と思われる。

問3 P市の条例についての会話文から、パブリックコメント、営業の自由、幸福追求権といった基本的知識を問う問題である。会話の文脈や選択肢の誤答の判断がし易く、難易度は低いと思われる。

問4 契約の原則や解除について、会話文から契約の原則とクーリング・オフの内容を問う出題である。自転車やエステといった具体的な事例を取り入れ、丁寧に作られた問題である。受験者にとっては、イメージしやすい問題といえる。「契約自由の原則」について、受験者に知っておいてほしいというメッセージ性を感じられる。

第2問 地方自治を題材にした問題であるが、制度についてただ問うのではなく、「地方議員のなり手不足」という現実的課題を取り上げ、多様な視点から考えさせる、「公共」らしい出題となっている。

問1 基本的知識を問う問題である。特にアとウは地方自治に関わる大切な概念であったり、

国政との違いを理解しているかを問うている点において重要である。

問2 ④は資料の読取りで、丁寧に読めば正解となるが、⑤に関しては、地方自治について基本的な知識や考え方がしっかりと理解していないと答えられない。

問3 地方自治法の町村総会の規定を取り上げており、ここまでの知識をもつ受験者は少ないと思われるが、出題としては、「直接民主制」と「間接民主制」の意味を理解していれば、丁寧に読めば判断できる問題となっている。

問4 **ア**と**イ**に関しては、身近な政治である地方自治の視点から、社会契約説に立ち返って、政治の原点を考察させる良問である。ただし出題形式としては、ホップズとロックの思想内容を正しく理解していれば正解となる知識問題であった。一方、**ウ**も知識を問うているが、二つの選択肢の用語が授業では教えられていないことが考えられる。「アウトソーシング」は外注という意味の一般名詞として理解しているかもしれないが、「インセンティブ」は、授業の中では（特に政治の文脈では）あまり扱われていないのではないかと推測される。総じて、問題文の記述を通じて考えさせる良い問題であるが、ルソーに関する部分や、最後の**B**の発言での高いメッセージ性など、受験者に読ませたいところではあるが、設問に絡まないため、読まなくても解答できてしまうのが残念である。

第3問 生徒が、AI やデータ解析は社会にどのような影響を与えるのかを考えるという設定で構成された問題である。前半は見やすい資料が示され、徐々にテキストデータを読ませるつくりになっているところは受験者にとって取り組みやすいものになっていると思われる。

問1 「AI・データ解析の専門家の不足状況」及び「AI・データ解析の専門家の不足理由」の資料を見て、今日の状況を読み取らせる問題である。大問の冒頭で日本の状況を大きく捉えることができる良問である。難易度は低い。

問2 企業の行動を囚人のジレンマで知られる「ゲーム理論」を用いて考えさせる問題である。囚人のジレンマについて学習する機会がなかった受験者にとっては難しく感じられたのではないかと推測される。一方で、単にモデルを読み解くだけでなく、どのように目の前の課題を解決することができるのかまで考えさせるという点で良問である。難易度は高いものではない。

問3 日本の租税制度についての知識を問う問題である。各選択肢が示している内容は適切なものであるが、一部の受験者にとってはやや難しい表現になっているのではないかと推測できる。難易度は標準である。

問4 AI の倫理的問題と幸福との関わりについて知識及び思考力を問う問題である。会話文を丁寧に読み取り解釈すれば正答に至る。AI が普及した社会における人間にとっての幸福とは何であるのかを深く考えさせるメッセージ性に富んだ問題であり、現在から未来に向けての展望を扱う良問となっている。難易度は標準である。

第4問 自治体で開催される若者議会に参加するために、三人の生徒が報告の準備をしているという場面設定で、主に社会保障に関する問題が出題されている。全体として、標準的な難易度の出題である。

問1 青年期についての基礎的・基本的な知識を問う問題である。**ウ**の文中の「儀式」と**X**の文中の「行事」が結びつくので**ウ**－**X**はすぐに確定する。誤答者は、**ア**と**イ**が**X**に結びつくか、**Y**に結びつくかで迷ったのではないかと推測される。

問2 北欧型・大陸型・自助努力型の社会保障制度の体系についての知識と資料をもとに会話文を丁寧に読み取る技能を必要とするが、標準的な難易度の問題である。

問3 積立方式と賦課方式の特徴についての基礎的・基本的な知識を問う問題である。標準的な難易度の問題である。積立方式の対応策が3階部分というのは違和感がある。

問4 セーフティネットや社会保険，ボランティアについての知識を問う問題である。労災保険の保険料が全額事業主負担であることは，教科書に記述されていないものもあり，「公共」の試験問題として難しいように思われる。しかし『公共，政治・経済』の受験者の正答率も高くなく，知識が十分身に付いていないと思われる状況がみられた。

3 分量・程度

大問4問，小問16問の構成であった。問題冊子のページ数は26ページで本試験の20ページよりも多い。配点については3点または4点であった。3点の小問が14題，4点が2題であった。基礎的・基本的知識を問う問題から，資料などの読取りや知識を活用し，思考力・判断力・表現力等を要する問題まで幅広く出題された。分量については適切であり，解答時間内で十分解答できたと思われる。昨年度までの『現代社会』の問題に比べて，一問当たりに提示される資料や会話文などの量は減っており，すっきりした印象を受ける。大問ごとの難易度と分量に差は感じられなかった。

4 表現・形式

四つの大問の問題文における場面設定は，第1問が生徒同士の会話をもとにした，主体的な探究学習活動，第2問が生徒の調べ学習をもとにした，生徒と教師，生徒同士での会話を通じて学習を深める活動，第3問も生徒の調べ学習をもとに，生徒同士での会話から課題を考察する活動，第4問が自治体の若者議会に参加する準備をする三人の生徒の活動と会話，を想定したものであった。結果として知識を問う問題であっても，主体的に学習に取り組み，考察して判断し，それを表現するという新課程での学習のねらいが，しっかり反映されている。

出題の形式としては，いずれの大問も，左ページから始まる見開きのページで完結しており，見やすくなっている。問題のまとまりとしても，設問の多い大問でも8ページに収まっており，受験者の集中力を考えても適切であったと思われる。

解答形式としては，用語の知識を問う小問が全体の3分の1を超える6問あったが，どれも一問一答ではなく，正しいものの組合せを問う形式になっている。また，四つの文から正しい文の一つ選ぶ知識問題は1問のみであった。これ以外の知識を問う問題の中には，資料の読取りとの組合せで解答する形式のものもあり，単純に知識のみで正誤判断をするだけでない思考判断も求められている。一方，必ずしも知識を必要としない資料読取りの技能を問う問題は2題であったが，このうち一つは，手順に慣れていないと時間を要する難解なものであった。会話形式などの問題文の中には，社会的課題を投げかけるメッセージ性の高い部分もあったが，設問に絡まないことで，受験者の中には深く読まずに終わる者もいたかと思われることは惜しまれる。

5 まとめ（総括的な評価）

本試験同様，追・再試験も学習指導要領を踏まえて作られており，取り扱っている話題など随所に現実社会の諸課題に取り組む「公共」らしさがみられる結果となった。本試験同様，各大問も内容のまとまり毎に作成されており，受験者にとっても解きやすい問題構成となっていた。さらに，高等学校の授業などの参考になるような場面設定や出題がなされており，今後の指導に役立てることができるものが多かった。

一方で，追・再試験の方が本試験よりも文字数が多い状況がみられた。受験者の負担を考えると双方とも減らしてもらいたいし，両冊子で文字数に差がないようにしてもらいたい。また受験者については，観点が知識に分類される問題に課題がみられた。公民科は内容教科ともいわれており，知識や

概念をしっかりと習得した上で、思考や判断をする学習活動がなされるものである。ところがその知識や概念がきちんと習得されているのかというと、そうではないのではないかと思われる状況がいくつかの問題でみられた。

今回、「公共」は初めての出題であり、本試験、追・再試験とも学習指導要領を踏まえ、また高等学校や受験者に対してよいメッセージを発しているといえる問題であった。今後の問題に更に期待したい。